

学位論文内容の要約

愛知学院大学

| | |
|--|-------------|
| 甲 第 号 | 論文提出者 齋田 昂佑 |
| 論文題目 唾液腺悪性腫瘍における遺伝子・免疫組織学的解析と その臨床病理学的意義 | |

唾液腺悪性腫瘍における分子病理学的な予後予測因子や効果的な分子標的治療は未だ明らかになっていない。

本論文では主に以下の点を明らかにした。

1. 唾液腺腺様嚢胞癌 (52 例) における *MYB*、*MYBL1*、*NF1B* 遺伝子再構成は組織学的高悪性、病理学的切除断端陽性の割合が高かった。

2. 唾液腺腺様嚢胞癌 (70 例) における *EGFR* 経路関連遺伝子変異はその 18.5%に認められた。内 *RAS* 遺伝子変異が 14.3%と比較的高率に認められた。これらの遺伝子変異陽性群は有意に無病生存率や全生存率が不良であった。

3. 唾液腺粘表皮癌 (30 例の内 FISH 法による *MAML2* 遺伝子分離陽性は 18 例) における Podoplanin の発現を免疫組織化学的に評価し、その 46.7%に Podoplanin の高発現を認め、その群は有意に無病生存率が不良であった。

本知見により、これらの腫瘍における患者予後の予測や分子標的治療の応用への可能性を示した。